

ロボットづくりは未来の人々の幸せづくり (インタビュー要旨)

千葉工業大学未来ロボット技術研究センター (Future Robotics Technology Center (fuRo))

所長 ^{ふる た}古田 ^{たかゆき}貴之



僕には創りたい世の中がある

僕は、ICTとかデジタルに向かうこの社会に窮屈さを感じているんです。デジタル技術がないと生活が成り立たないなんておかしい。手段と目的をたがえている。デジタル技術もロボット技術も手段であり、それを使ってどういう世の中を創るか。人々にどういう幸せを届けるかが重要です。僕の使命は、ロボット技術をいかにこの世の進化に繋げ、役立つものにするかということです。

僕はコンヴィヴィアルな社会（オーストリア出身の思想家イヴァン・イリイチが提唱）を創りたい。一言でいうと、みんなでワイワイガヤガヤ盛り上がる社会です。これに高齢者を含めたい。ロボット技術で高齢者の健康不安を取り除き、体の動きを補助し、人と繋がるのを助けたい。できないことをできるようにして、高齢者がいつまでもやりたいことをやれる社会を創りたい。僕の定義では、人や世の中は、心と体と社会でできています。僕は、ロボット技術で人の心を動かし、文化を前に進め、人と人とを繋げていく。色々な人が色々な職業で、世の中の人々の心を動かしワイワイガヤガヤ盛り上げていく。そこにほんのちょっと手助けをしたいんです。

この世の中を、前に、持続的に進めるためには、多様な社会を認め、いかに人と社会を繋げるか、自分が何ができて何をするか、誰が何ができて、その人とどう繋がるかが重要となります。だから僕は、共に創る社会を創ることが重要だと思っています。

僕の役割は……fuRoの掟

いじめで一番ひどいのが無視だといいます。この世のすべての争いは、相手を認められないことから起こります。逆に言えば、すべてを認めて受け入れれば争いは起こらない。相手と繋がるということは、その人のすべてを受け入れ認めるということです。どんな嫌な奴でも受け入れる。子育てもそうでしたが、できることもできないことも受け入れる。それが、人と繋がる鍵となり、信頼関係もそこから生まれます。共に創るということの根幹はそこにあります。

そんな信頼関係で結ばれたfuRoはチームであり家族でもあります。鉄の掟があります。それは、「全ての失敗は古田のせいにする。」ということ。理由は二つあります。

一つ目は、リーダーたるもの、命懸けで決断し、命懸けで行動し、命懸けで責任を取らなくてはならない。それをやらないリーダーはリーダーの資格がないと思うから。

二つ目は、この掟があるから、みんなが怖い仕事ができるということ。我々クリエイターは、できるかどうか分からないことをやる。それが怖い。でも、やらないと未来が開けない。だから僕はみんなを恐怖から解放する。「失敗したら全部俺のせい。」「だめだったら俺が責任取るから思いっきりやれよ。」と。だから色々な新しい技術が生まれます。

子供には場や空間をいっぱいあげてほしい

コロナ禍の中でわかったのは、場と空間が



重要だということ。リモートでは、相互の人間の空気感、雰囲気などが削ぎ落とされてしまい、自由にどこでも繋がれる場や偶然性が全くない。道具としてはいいが、これを人のコミュニティのメインにしてはいけない。いつも言っているのだが、ロボットとかプログラミングとかを料理でやってほしい。「この人は、これやっている間にこれを切っておいて。」これはまさにプログラミングだ。その中で共につくることを覚え、人間関係を覚えるというのが本当のプログラミングだと思う。

ダメなパターンは、例えば、絵を描いていて「こう描きなさい。」「ああ描きなさい。」と言うこと。作文も「こう直しなさい。」とか。良いも悪いも受け入れて、個性として認められるといいのに。何を目的にしているか。失敗も成功も全部自分で創り出し、自分で反省し、自分のものにしなければだめなんですよ。

よく子供たちに言うんです。「嫌いなことはそこそこにしておけ。好きなことは誰にも負けるな。」と。うちの娘は4歳の頃、ゲームやりたさにポケモン図鑑という分厚いやつをボロボロになるまで読んで、データを全部頭に入れて戦略的に考えて、ボロボロになったのでまた2冊目を買って。そうしているうちに、いつの間にか漢字も覚え、計算もできるようになった。つまり、好きなことをどんどん突き詰めると、そのレベルまでいくということ。普通のことをしていたら、普通の子にしか育たない。将来何になるのかは全く知りませんが、好きなことを突き詰めるとするのは、とても大事なことなのかなと思います。

見つけてあげてほしいんです。子供はたぶんいろいろ発信しているのに、見て見ぬふりをするのか、自分の型にはめようとするのか。

他人の多様性を認められないなら、せめて子供の多様性くらいは認めてあげませんか。

僕は、子供たちに、「好きなこともない、やりたいこともないというのは、君は何でも選べる自由があるってことなんだよ。」と言っています。子供たちはみんな無限の可能性をもっています。だから、場や空間をいっぱい与えてあげてほしいんです。

僕は先生方からのバトンを受け継いでいく

ロボット学者も音楽家も漫画家も大体の人は、やりたいことは小中学校で決まっています。学校教育が未来を創っていると言っても過言ではないでしょう。現場の先生方は、「間違いなく未来を創っている。」と自信をもって胸を張ってください。

本当に、子供たちの未来を創っているのは先生方であり、僕らはそのおこぼれを頂戴しています。子供たちはみんな先生方の姿を見えています。誇りをもって、今までどおり職務に励んでください。もっと評価されていいはずなのにな、学校の先生って。

日本の民度の高さは間違いなく学校教育の賜物です。いろいろな国に行くけれど、財布をなくして出てくる国なんて、全世界で日本だけです。だから、皆様が教育した、将来、青年や大人になる少年少女を、僕はちゃんとゴールに連れていく義務があります。これからも皆様からバトンを受け継いでいるつもりで頑張ります。

略歴

1968年、東京都生まれ。工学博士。

2003年6月から現職。

14歳の時余命宣告を受けるが奇跡的に快復。

日本屈指のロボットクリエイター。

ユニバーサル未来社会推進協議会（文部科学省）副会長

著書『不可能は、可能になる』（PHP研究所）